

各議案議決状況

議案名	委員会結果	採決状況	結 果
平成20年度土岐市一般会計補正予算（第2号）	可 決	全会一致	可 決
平成20年度土岐市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	可 決	賛成多数	可 決
平成20年度土岐市介護保険特別会計補正予算（第1号）	可 決	全会一致	可 決
土岐市特別職報酬等審議会条例等の一部改正	可 決	全会一致	可 決
土岐市職員の給与に関する条例及び土岐市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正	可 決	全会一致	可 決
土岐市職員の公益法人等への派遣等に関する条例の一部改正	可 決	全会一致	可 決
土岐市認可地縁団体の印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正	可 決	全会一致	可 決
土岐市公告式条例の一部改正	可 決	全会一致	可 決
土岐市ふるさと応援基金条例の制定	可 決	全会一致	可 決
土岐市税条例の一部改正	可 決	賛成多数	可 決
土岐市都市計画税条例の一部改正	可 決	全会一致	可 決
土岐市産業福祉会館設置及び管理に関する条例を廃止する条例	可 決	全会一致	可 決
土岐市営住宅管理条例及び土岐市特定公共賃貸住宅条例の一部改正	可 決	全会一致	可 決
土岐市消防団員等公務災害補償条例の一部改正	可 決	全会一致	可 決
土岐市土地開発公社定款の変更	可 決	全会一致	可 決
土岐市教育委員会委員の選任同意（2件）	-	全会一致	可 決
土岐市公平委員会委員の選任同意	-	全会一致	可 決
専決処分の報告及び承認	-	全会一致	可 決
土岐市功労章の授与	-	全会一致	可 決

特別委員会活動報告

まちづくり特別委員会

六月二十日

まちづくり交付金についてのレクチャーを名城大学講師の長谷川氏より受ける。

七月二十四日

五斗蔭サーブスエリアにおけるスマートインター導入についての進捗状況について建設部より説明を受ける。平成二十二年社会実験開始予定。

プラスマリサーチパークへの企業誘致、進捗状況について都市再生機構から説明を受ける。機構所有の宅地、四十二区画に関しては完売、計画住宅用地（集合住宅）は整備中。

八月二十五日

瑞浪超深地層研究所施設見学

研究所では主に高レベル放射性廃棄物を地層処分するための研究を行っています。

現在、地下三百メートルまで掘削が進み千メートルまでの掘削が予定されています。

放射性廃棄物処分場候補地については平成二十七年までに決定しなければいけないようですが、候補地となった

住民の反対も予想され困難を極めるだろうと思われます。

当地では平成七年に県、瑞浪市、土岐市、事業団との間で協定が締結されました。

協定には、「研究所について放射性廃棄物を持ち込むことや使用することは一切しないし、将来においても放射性廃棄物の処分場とはしない。」と明記されています。

九月二十四日

富山県南砺市城端地区視察
新土岐津線推進部会のみなさんとともに視察しました。

岐阜県とは県境を挟んだ市で平成十六年四町四村が合併し南砺市となったもので合掌造りの五箇山は隣接する白川村とともに世界遺産に登録されています。



南砺市視察

城端地区は金沢市から二十七キロメートル、善徳寺の門前町として栄えたところで絹織物の産地でもあります。

旧城端町を通る国道三〇四号線の拡幅に合わせ平成七年から百十六億をかけて商店街再開発を行われました。

まさに住民主体の事業で用地費、補償費などすべてのお金を組合で一括管理、延べ八百坪もの建物を一斉に取り壊すといったことで、まさに住民主体で行政は高度化資金の借入、補助金申請など住民のお手伝いに徹していたとのことでした。

当地の伝統行事である曳山祭り、むぎや祭りが似合う町並みをつくらうということで、町並み景観建築基準を策定し、シャッターなどは一切使用しない、外観の色彩などにも配慮され、京都を思わせる落ち着いた商店街となっていました。

ただ、道幅が十七メートルと豪雪地帯であることから広く取ってあるようです。



整備された国道304号線と街並み

が、商店街が分断されてしまったかの印象を受けました。

行財政改革特別委員会

前号（八月十五日号）で、今年の行財政改革特別委員会は、「総合病院の改革プラン策定に向けて」を協議事項の中心としたことを掲載しました。

その後、市長宛に依頼していた資料が提出され、最近六年間の決算数値や関係法令など十三項目百十ページにわたる資料に基づき、総合病院担当者から七月二十二日、八月十三日に説明を受けながら質疑を行い、本格的協議に入りました。八月十三日の協議で、十月下旬頃までに委員会として中間意見書提出を目標とすることを確認すると共に、短期間で中間意見書をまとめなければならぬことから、各委員の意見や提言事項などを文書にして、九月一日までに委員長宛に提出することとし、委員長は各委員の意見や提言事項を参考にしながら「委員長メモ」にまとめ協議の素材とすることを確認しました。

そして、六ページにまとめられた「委員長メモ」に沿った協議が九月十九日・十月六日・二十二日と三日間かけて白熱した活発な議論を行い、中間意見書に記述する具体的内容が固まりました。

ました。

具体的内容の協議は、三年以内の短期実施と五年以内の中期実施に区分して議論を進めてまいりましたが、全体としての主な内容は次のとおりです。

経営の基本に関する事項として、不足している医師確保のため県や東濃地域連携による貸付制度に本市独自の貸付制度を上乗せ実施すると共に退職女性医師復帰による医師確保を目指してはどうか。また、総合病院の経営実態などの情報を市民に公開、説明すると共に経営に関し病院内部だけの協議ではなく、市民や患者の意見を反映する協議機関を設置してはどうか。事務局体制の中に病院経営に関する専門職を配置してはどうか。

そして、サービス向上に関する事項として診察時間の延長や市民バスの利便性向上・ソーシャルワーカーの専門職化・医療メデイエーターや医療クラークの配置・診察室や待合室などの清潔感と安心確保のための点検と整備・ジェネリック薬品使用の拡大等を実施してはどうか。

さらに経営の経理に関する事項として、医療機器購入等の契約見直し・滞納徴収体制の見直し、及び委託化の検討・事務的職員の削減を中心とする人件費削減と人材確保のための給料体

系の見直し・一般会計からの繰入額の上限設定・病床数の見直しと緩和ケア病棟設置の検討などを実施してはどうか。などとなっています。

また、本市だけでは結論が出せなく期間的に五年以上必要であり、政治的な検討課題として多治見市・瑞浪市・土岐市の三市共同による総合病院建設についての研究も始めるべきなど、短期・中期・長期の課題について提案することとなりました。

なお、紙面の都合で詳細に掲載できませんが、市長宛の中間意見書はこれらの方向をもとに現在作成中です。すべてがまとまった段階で市民の皆様へ報告する予定にしています。



10月22日に開かれた委員会